



環境

製品・サービスの開発から調達、生産、輸送、販売、使用後まで全ての段階で環境への影響を配慮した事業活動と負荷低減に継続的に取り組んでまいります。

■ 環境理念と環境方針

わたしたちマダムグループは、事業活動を通じて、生活者や社会にお役立ちをしたい、地球環境の保全に努めたい、日常業務において一人ひとりが環境について考えたいという思いから、1999年8月にマダム環境理念、環境基本方針、福崎工場〈環境方針〉を制定し、2000年11月には福崎工場が「ISO14001」を認証取得しました。

その後、2016年5月には、「バリューチェーンを通じた環境保全の取り組み」、「社会からの要求への対応」、「計画的なパフォーマンスの向上」の強化を図ることを目的として、環境理念を改訂するとともに、「商品」「生物多様性保全」「福崎工場」を重点3領域とし、それぞれの環境方針を定め、環境活動を推進しています。

環境理念

わたしたちは、バリューチェーンにおける環境への影響把握に努め、社会との連携を図りながら、計画的に環境保全を推進します。

環境方針

●商品の環境方針

わたしたちは、環境配慮を商品「価値」の一つと位置づけ、持続可能な社会づくりに「お役立ち」するため、環境（エコロジー）と経済（エコノミー）が両立する商品の「価値づくり」を推進します。

●生物多様性保全方針

わたしたちは、様々な生物からの恵みと自然の豊かさから恩恵を受けていることを認識し、バリューチェーンにおける生物多様性への影響把握に努め、生物多様性への影響回避と低減に取り組めます。

●福崎工場環境方針

わたしたちは、化粧品および医薬部外品の生産活動における環境への影響把握に努め、持続可能な社会づくりに「お役立ち」するためによりよい地球環境の保全および地域社会との共生を目指して、環境活動を推進します。

1. 生産活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目標を定め、取り組み、定期的に見直し、環境保全の継続的改善を実施します。
2. 生産活動における環境負荷低減を目指し、下記の項目を重点的に取り組み、持続可能な社会づくりに「お役立ち」します。
 - (1) 省エネルギーを推進し、温室効果ガス（二酸化炭素）排出量の削減
 - (2) 埋立処分廃棄物ゼロ（ゼロエミッション）の推進
 - (3) 産業廃棄物排出量の削減
 - (4) 排水リスクの予防による地域環境の保全
3. 環境法規制および地域社会や利害関係者との合意事項を順守し汚染の予防に努めます。
4. 従業員一人ひとりが、本環境方針に沿った自らの役割を自覚し、行動するよう努めます。

この環境方針は、必要とする社内外のすべての方々に公表します。

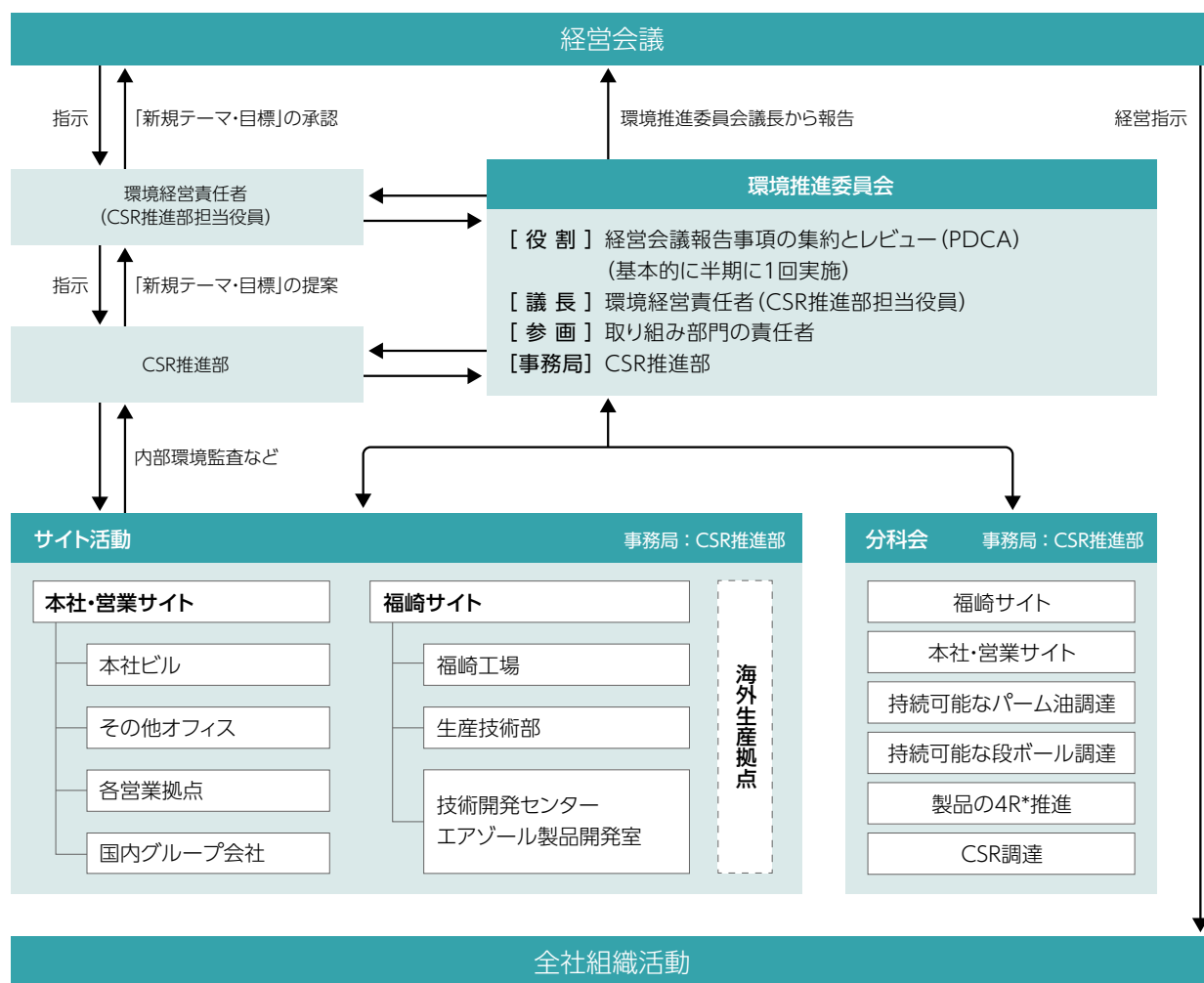
■ 環境推進体制

マンドムでは、環境保全を経営上の重要課題と位置づけ、「環境理念」、「環境方針」に基づいた環境活動を推進しています。

福島工場では、2000年11月に「ISO14001」の認証を取

得、オフィス(本社ビル、東京日本橋ビル、各営業拠点など)では、それに準拠した環境マネジメントシステムを構築し、環境目標を設定してP(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)サイクルによる環境推進活動を実施しています。

● 環境推進体制



● 3カ年の環境テーマ

2017年分科会	3カ年目標(2017年～2019年)
福島サイト	● 長期目標を達成するためのCO ₂ 排出削減・省エネ計画の策定・実施
本社・営業サイト	● 産業廃棄物の再資源化(ゼロエミッション)の継続と、再資源化率の向上
持続可能なパーム油調達	● 福島工場仕入れのグリセリン全量のRSPO認証油(ブックアンドフレーム方式)化
持続可能な段ボール調達	● 製品流通に使用する段ボール全量のFSC認証紙化(努力目標)
製品の4R*推進	● ラミネート包材全てにおけるバイオマス資材の配合 ● 紙製容器包装のFSC認証紙化(50%以上)
CSR調達	● サプライチェーンのモニタリング機能強化と対象範囲の拡大

*4R: Reduce, Reuse, Recycle, Renewable

*Renewable: 再生可能な資源の利用

■ 製品・サービスの環境配慮

■ マイクロプラスチックビーズ使用中止の方針

現在、マンダムグループの一部のスクラブ洗顔料において、角質除去を目的としてマイクロプラスチックビーズ（合成の非水溶性プラスチック粒子）を配合しています。近年、海洋中に流出するプラスチックに関し、食物連鎖を通じて生態系に与える影響が議論されており、米国では、2015年12月に、洗い流しのパーソナルケア製品に関し、マイクロプラスチックビーズの使用を段階的に廃止する法律が定められました。

こうした状況も踏まえて、マンダムグループでは、今後、洗い流しの製品にマイクロプラスチックビーズを使用

しないと、2017年末までに洗顔料に配合しているマイクロプラスチックビーズを本懸念のないものに代替する方針を定めました。

なお、2016年8月29日には、環境に配慮した「生分解性スクラブ」を採用した以下の2品の洗顔料をリニューアル発売しました。

- ギャツビー フェイシャルウォッシュ
パーフェクトスクラブ(130g)
- ギャツビー フェイシャルウォッシュ
ミクロリッチスクラブ(130g)

■ 脱炭素社会にむけた取り組み推進



マンダム公式WEBサイト

▶ CSR情報 ● 環境データ推移 ● 環境会計

■ 福岡工場での取り組み

福岡工場では、エネルギー監視システムの電力使用量データを毎月の所属長会議で共有し、工場各課における節電対策に活用しています。また空調や冷却装置に、夜間電力を熱エネルギーに転換し昼に使用する氷蓄熱システ

ムを採用することで電力を有効利用しています。

2016年度の電力使用量は、748.7万kWhで、前年度比約102.8%（売上高原単位前年度比約98.7%）となりました。

■ オフィスでの取り組み

本社ビルでは、デマンド監視装置で時間帯別の電力使用量を管理し、最大需要電力（デマンド値）を抑制しています。また、照明のLEDへの切り替えや変圧器の高効率型

への変更に、継続的に取り組んでいます。

その結果、2016年度の電力使用量は、257.2万kWhで、前年度比約97.4%となりました。

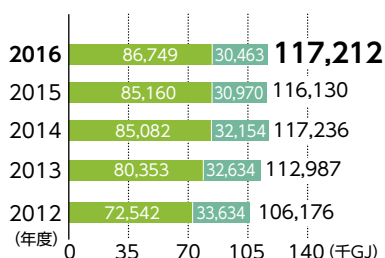
■ 物流・輸送での取り組み

物流・輸送によるCO₂排出量を削減するために、業務の効率化や、トラック輸送を貨物列車・貨物船輸送に切り替えるモーダルシフトに注力しています。物流・輸送の効率化を目的として、2004年10月から業務を外部委託しており、姫路から九州の物流拠点までは主に鉄道貨物輸

送、舞鶴から北海道の物流拠点までは海上貨物輸送としています。トラック輸送においては、積載率を限りなく100%に近づけるよう継続して努めていますが、2016年度の物流・輸送によるCO₂排出量は出荷数量の増加により、2,229トンで、前年度比103.8%となりました。

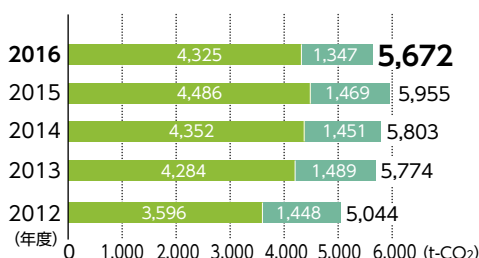
● エネルギー使用量

■ 福岡工場
■ オフィス（本社、東京日本橋、青山、各営業拠点）



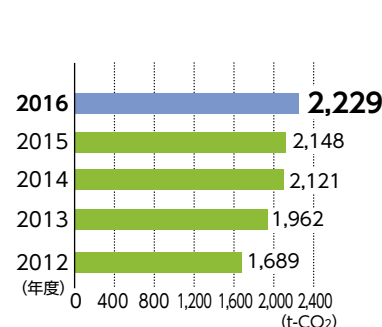
● CO₂総排出量

■ 福岡工場
■ オフィス（本社、東京日本橋、青山、各営業拠点）



注）電力使用に伴うCO₂排出係数は、各年度の電気事業者ごとの公表実排出係数を使用しています。

● 物流・輸送によるCO₂排出量



■ 生物多様性の保全

■ 持続可能な原材料の調達にむけて

マダムでは、2016年4月に生物多様性の保全に関する方針を策定し、環境方針(P.39参照)に新たに盛り込むとともに、2017年2月のCSR推進委員会にて、マダムグループCSR重要課題の取り組みの一つとして、生物多様性の保全にも配慮した持続可能な原材料の調達と利用についての検討を開始しました。

その中で、以下の2つの長期目標の達成にむけて、段階的に取り組みを進めていくことを決定しました。

※1. RSPO:持続可能なパーム油のための円卓会議(Roundtable on Sustainable Palm Oil) ※2. FSC:森林管理協議会(Forest Stewardship Council)

1. 2027年までに原料の起源となるパーム油の全量をRSPO※1認証パーム油とすること
2. 2027年までに紙製容器包装の全量をFSC※2認証紙とすること

なお、この取り組みは、環境、生物多様性の保全のみでなく、関連するサプライヤーや有識者、NGO・NPOなど多様なコミュニティの方々との協力関係を積極的に構築・強化しながら、人権や労働の課題にも配慮した「CSR調達体制の構築と運用」にもつなげてまいります。

■ 循環型社会形成の推進

■ 水資源の有効活用

福岡工場では、日頃から各部署における節水の呼びかけや、生産設備・配管などの洗浄方法の見直しを行い水使用量の削減に努めています。

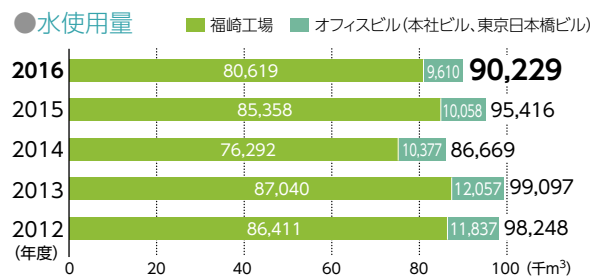
本社ビルでは、水量調節ができる器具や、節水型の水洗トイレを導入しています。

その結果、2016年度の水使用量は、90,229m³で前年度比94.6%となりました。



マダム公式WEBサイト

▶ CSR情報 ● 環境データ推移 ● 環境会計



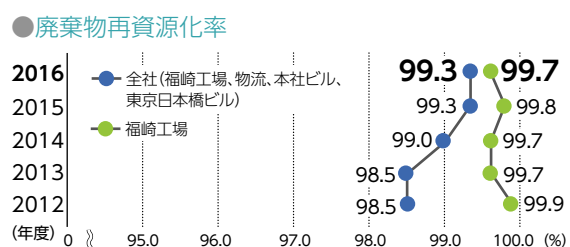
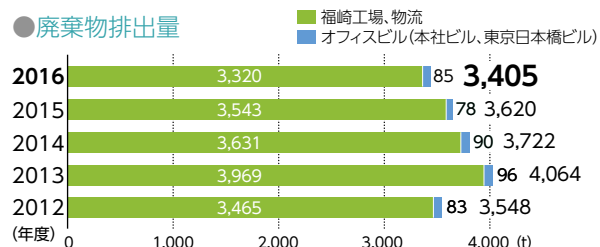
■ 廃棄物への取り組み

福岡工場では、2003年10月以降、産業廃棄物の再資源化を99%以上とする「ゼロエミッション」を達成し、2016年度においても、国内全事業所で達成しました。

本社ビルでは、廃棄物の削減とリサイクル促進のため、異動者、新規入社者を対象に環境問題に関する講義、廃

棄物の適正区分・適正処理のルールなどの説明会を毎年実施しています。

その結果、2016年度の一般廃棄物を含む廃棄物排出量は、3,405トンで、前年度比94.1%となりました。



■ 汚染防止への取り組み

福岡工場では、大気汚染物質である硫黄酸化物(SOx)や窒素酸化物(NOx)の排出量を抑制するため、ボイラーの使用効率向上や電気温水器の導入などの対策を講じています。

また、2015年9月より福岡工場からの排水は、兵庫県の福岡町下水道に接続されたことで、排水基準が緩和されることになりましたが、協定値より厳しい排水基準を設定し、排水処理を行っています。